

SEL 生きる力を育む教育について

温海地域では、温海の次世代を担う子どもたちの保育・教育環境を整備し、一貫した取組みとするため、令和2年度からあつみ福祉会と、令和3年度からは温海地域小中学校と温海庁舎が連携し、SEL（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング：社会性と情動性の学習）を取り入れた「生きる力を育む教育」に取り組んでいます。（SELについては3ページをご覧ください。）

保育園での取組み

毎年、SEL 教育アドバイザーが訪問指導・職員研修をおこない、職員がSELについて学び、子どもたちの日常保育にSELを取り入れています。各園では、毎朝、EQチェックインを行い、自分の思いの変化をカードで表現することが習慣化してきており、感情の共有が図られています。

小中学校での取組み

毎年、SEL 教育アドバイザーが小中学校各校を訪問し、授業の様子を見て指導を行ったり、教職員研修を実施し、授業への導入に向け理解を深めています。令和7年度はPTA研修会や教職員・保育士対象にした専門的な講座を行いました。あつみ小学校と鼠ヶ関小学校では、保育園に引き続きEQチェックインを行っています。

【教育の現状】

今の教育は、学力偏差値に偏重し、「正しい答え」を導き出す技術を教え、試験で高い点を取り、偏差値の高い学校に入学することが子どもたちの教育の最終目的であるかのような傾向にあります。しかし、それ以前に子どもたちが豊かに成長するにはどうするべきかが大変重要であると考えられます。

1990年代の米国でも学力偏重の教育が行われた結果、不登校や不良、暴力等の問題が増え、それに疑問を感じた学校で「生きる力」の教育であるSELが取り入れられました。「生きる力」の教育は、学力と両立できることも証明され、「生きる力」の教育を受けた子どもは、そうでない子どもより結果的に10%以上も学力が高くなったというデータもあります。

【温海地域の取組み】

次世代教育として注目されている「生きる力を育む教育」。自分の気持ちをコントロールできる、他人を気遣うことができる、他者とのコミュニケーション能力を高めることができる、「非認知能力を高める教育」であるSELを温海地域の教育方針とし、保育園児から小学校児童、そして中学校生徒まで一貫しての次世代教育に取り組んでいます。

「子育てするなら温海で」と選ばれる地域

を目指して

豊かな自然に囲まれ、数々の伝統文化が息づき、地域連携の残る温海地域は、教育環境としては最適な地域だからこそできる、これからの AI 時代を生き抜くための「非認知能力」を育てる質の高い保育・教育を目指しています。

これからの時代は、AI などの人工知能により、人間の仕事が奪われていくとも言われていますが、そのような時代だからこそ I Q（知能）だけではなく、E Q（心の知能）を伸ばすことが、これからの時代に必要とされる人材を育む教育であると考えられます。

講師紹介

（SEL 教育アドバイザー）



日本における社会性や情動スキルの教育（SEL: Social Emotional Learning）の第一人者であり、全国各地で次世代教育を推進している。

日本 SEL 推進協会 理事

日本 SEL 学会 会員

一社）感情活用研究会 理事

三森朋宏氏

株式会社 TH design 代表

「生きる力」「精神的英知」は、1 歳～3 歳の間は、親だけでなく、おばあちゃん、おじいちゃん、近所のおばさん、おじさんなど多くの世代の方に囲まれて育つことで、共感力を身に付け、多様性を理解します。4 歳～10 歳頃までは、身近にある自然から自然の力、自然と共に生きる経験によって養われます。

SELとは

SEL (Social Emotional Learning) とは、社会的能力と気持ちに関わる能力を高める教育と呼ばれ、教育現場や家庭で行われるEQ（こころの知能指数）教育です。

SELは子どもが、

- ・自分の感情を意識し上手に調整する
- ・前向きな目標を自ら設定し挑戦する
- ・人の気持ちを理解し、共感を示す（適切な対応をとる）
- ・良好な人間関係を築き、維持し、修復する
- ・責任ある決断をする

といった行動において必要な知識・態度・スキルを習得し、効果的に活用するためのプロセスです。すべての学びのベースとなるものであり、自分自身や「人間」について学ぶためのプロセスです。

認知能力と非認知能力

◆認知能力＝知的能力（IQ）

基礎的知識、記憶力、判断力など一般的な知能検査（テスト等）で測定できる能力（算数、国語など）

◆非認知能力＝意欲、興味、自信、協調など感情や心の動きに関連する能力

忍耐力（最後までやり抜こうとする）

社会性（人と上手にコミュニケーションする）

感情コントロール（気持ちをうまくコントロールする）

3つが中心

幼児期に非認知能力を高める教育が最も効果的で、成人後もその効果が続き、社会的な成功や健全な生活に繋がるという研究データがあります。

認知能力と非認知能力は絡み合うように伸びると言われています。意欲や関心を持って粘り強く取組むと、自然に深く考えたり工夫したり認知能力が高まります。結果、達成感や充実感が得られ、「次も頑張ろう」と非認知能力が強化されます。